

宮崎県 酒類分野における地場産業成長プランの概要

1. 支援する分野

酒類分野（本格焼酎及びその関連産業）

2. 支援する地域及び核となる事業者

○支援する地域

都城市、宮崎市、高鍋町、日南市、高千穂町

○核となる事業者

霧島酒造株式会社や柳田酒造合名会社をはじめとする
輸出をリードする複数の県内蔵元

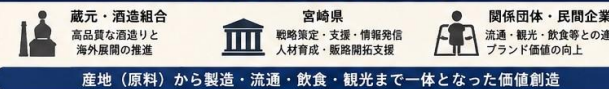
宮崎の本格焼酎を「世界のプレミアム蒸留酒」へ

～輸出を成長の主軸とした高付加価値型産業への構造転換～

4つの重点プロジェクト（勝ち筋）



一体的な推進体制「オール宮崎」



目指す姿【目標】

本格焼酎輸出額（KGI）

2030年	2035年
7.5億円	15億円

輸出割合（売上高比）

2030年	2035年
1%	2%

エリア別輸出額の目標（億円）

市場	2024年 （実績）	2030年 （目標）	2035年 （目標）
中国	1.11	2.80	6.50
米国	0.75	2.90	5.50
韓国	0.20	0.80	1.80
その他	0.82	0.92	1.04
全体	2.88	7.42	14.84

3. 目指す姿（目標）

- (1) 海外市場を成長エンジンとする産業構造への転換を図り、「日本、そして宮崎の本格焼酎」を世界市場において広く認知されるブランドとして確立する。
- (2) 輸出拡大、高付加価値化及び観光・食との連携を通じて、地域産業全体への波及を図る。
- (3) 本格焼酎を核として、原料生産、製造、流通、飲食などの関連産業の持続的な発展につなげる。

4. 勝ち筋

- (1) 「食」との連動（ガストロノミー）
海外トプレレストランにおけるペアリング
需要の確立
- (2) 専門人材のアンバサダー化
現地バーテンダー・ソムリエを育成、
現地での発信拠点を構築
- (3) 飲用スタイルのグローバル化
「Shochu Cocktail」を契機に世界の
バーシーンの標準カテゴリーへ
- (4) 蔵元の直接交渉力向上
次世代リーダーの育成による、個社の
「自走する輸出体制」の整備

5. 政策手段

- 酒造会社に新たな設備投資を促しながら、
- (1) 「食の聖地」を起点としたガストロノミー戦略
 - (2) 現地インフルエンサーによる伝道師育成（アンバサダー戦略）
 - (3) 世界基準の飲用スタイル確立（カクテル戦略）
 - (4) 次世代グローバル人材の育成（人的資本投資）
 - (5) 産地ブランドの一体的発信環境整備
 - (6) 観光・地域資源とのシナジー創出に取り組んでいく。